2.4.2 疲労特性

2.4.2.1 試験機および試験条件

・ 試験方法 : JCBA T308; 2001(仮)(銅および銅合金薄板条の

疲労特性試験方法)に準拠

・ 試験片採取方向 : 圧延方向に平行(L.D.)および直角(T.D.)

・ 試験片幅 : 10mm ± 0.2

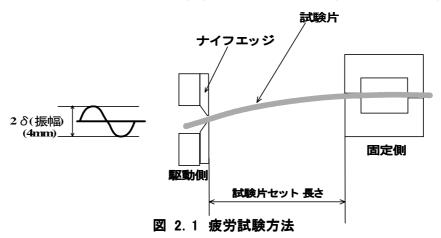
・ 試験片の固定トルク : 下部 2N·m, 上部 3N·m ・ ナイフエッジと試験片の間隙 : 0.05mm(上下間の合計)

・ 両振り片振幅 : = 2mm

・ 縦弾性係数値 : たわみ係数測定値(アカシ製ばね試験機)

・ 測定値 : 5×10⁵~10⁷迄の S-N 曲線
・ 試験機 : アカシ製(AST-52B)および

IMV(株)製薄板疲労試験機(VS-1030S-140)



2.4.2.2 応力の算出

$$=\frac{3\times E\times t\times}{2\times I^2}----(2-1)$$

=最大曲げ応力(N/mm²)

= たわみ量(mm)

1 = 試験片セット長さ(mm)

t =試験片厚さ(mm)

E = たわみ係数(N/mm²)

2.4.2.3 試験材料

合金番号と質別を表 2.1 に示す。

表 2.1 試験材料の合金番号と質別

質別合金番号	1/2H	Н	EH	НМ	ЕНМ
C1020	_	0	_	_	_
C2600	_	0	0	_	_
C2801	_	0	_	_	_
C5191	0	0	_	_	_
C5210	0	0	0	_	_
C1720	_	_	_	0	
C1990	_	_	_	_	0
C7701		0	_		

注: 印は対象試験材料